

ライフケアサポート情報誌

# こもれび

K O M O R E B I



特集

## 感染症（予防）への取り組み



社会福祉法人 関係 済生会支部 鹿児島県済生会  
済生会鹿児島地域福祉センター  
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号  
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252  
□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2019

vol.26

新年号



# 人生100年時代に備える高齢期の感染症予防対策

済生会鹿児島地域包括ケアセンター

済生会鹿児島地域福祉センター 所長 吉田 紀子

新年明けましておめでとうございます。

皆様には平成締めくくりの新年元旦をお健やかに迎えのことに存じます。

近年人類の平均寿命が次第に延び、人生100年時代と言われるようになってきました。「Life Shift 100年時代の人生戦略」によれば2007年生まれの日本人は107歳まで生きる確率が50%とされ、また、UCLAのHuman Mortality Databaseによると、アメリカ、カナダ、イタリア、フランスも同様に長寿化傾向がみられ、2007年に生まれた子供たちは104歳まで生きる確率が50%と推計されています。まさに先進国では人生100年時代は現実的になってきました。

このことは、私達がこれまで60歳頃でリタイアし、20年程の余生を送ってきた人生設計から、経済的にも生きがいの的にも最初の職場をリタイア後、第二・第三の職場で80歳過ぎまで働くマルチステージの人生設計に変えねばならないということを意味しています。

それを可能にするには、心身の健康が必要条件となってきます。

主に中年期以降の生活習慣病等の発症に加えて、高齢期になると男女ともに7~8割が70歳過ぎたところから次第に全身の機能が低下して虚弱(フレイル)になり、要介護状態になっていくとされていますが、このフレイルを予防し、体力と健康を保持・増進させることが必要です。

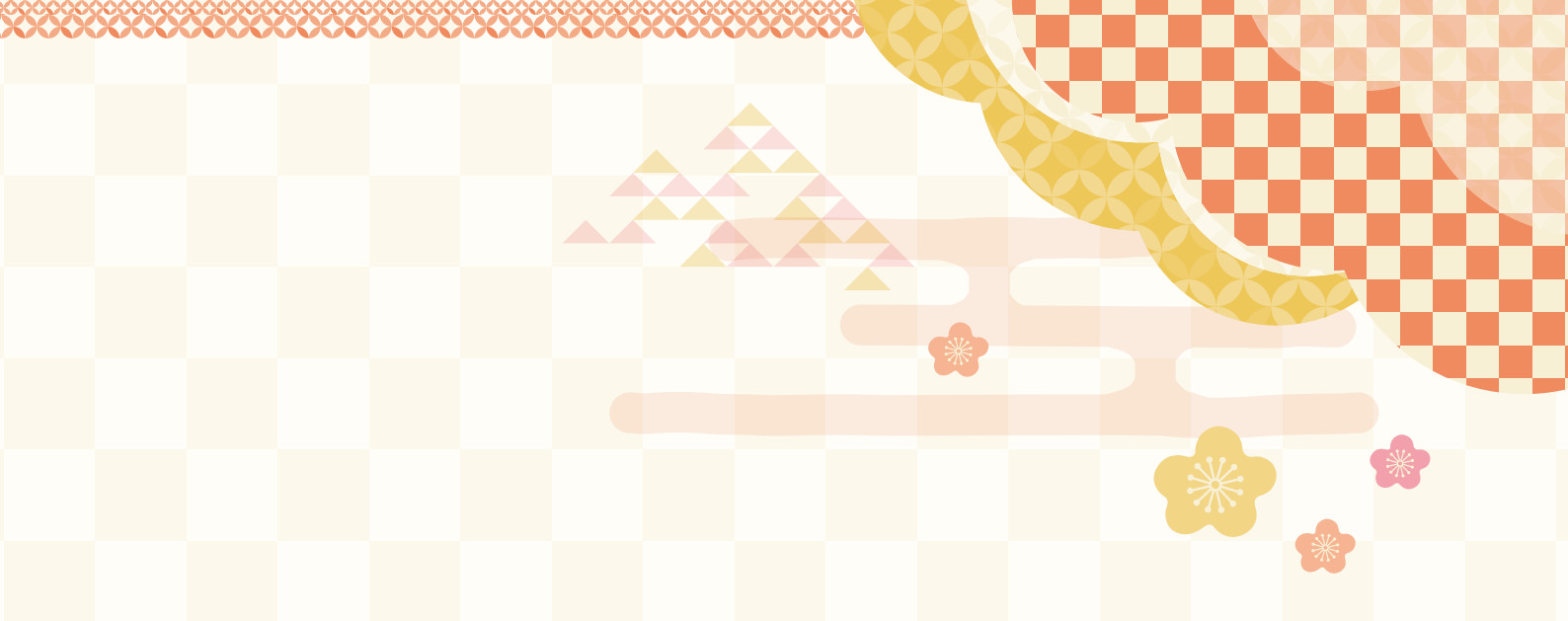
世界一の高齢大国日本では、人生100年時代に向けて、今後は、高齢期の疾病予防・フレイル予防・介護予防がこれまで以上に重要になってきます。

今号では、高齢期に多くみられる疾病のうち、感染症とその予防について取り上げます。日本人の死因の第3位に肺炎が浮上していますが、これは高齢者のインフルエンザや肺炎球菌感染等による肺炎や誤嚥性肺炎による死亡がその多くを占めているためです。高齢者に多い感染症はインフルエンザ、感染性胃腸炎、腸管出血性大腸菌感染症、痲皮型疥癬、結核、耐性菌感染症、緑膿菌感染症等があります。

感染症は病原体の感染力(量・病原体の性質等)と人の抵抗力と環境(気温・湿度・空気循環等)の状況により発生します。従って、感染症の予防には病原体の感染力を低下させることと、感染しにくい環境を整えること、宿主(人間側)の抵抗力を高めることが重要です。

感染症の感染経路は病原体に汚染された飲食物、物体、手指、汚物などから口に入り感染する経口感染、皮膚の傷口等を通して感染する接触感染、咳やくしゃみにより体内の病原体が空中に出てそれを吸い込んで感染する飛沫感染、媒介動物(昆虫や動物)などにより、感染しますので、生活環境を清潔にし、咳やくしゃみを飛ばさない・吸い込まない(マスク、うがい・てあらい等)、蚊や不潔な動物に接触しない等が重要です。さらに適度の湿度を保ち室内を乾燥させない、適温に保つ等が、病原体の増殖を抑え感染力を低下させることに繋がります。

さらに、感染症の予防で重要なことは、人体の抵抗力を高めることです。



人体は物理的バリアと免疫システムによって感染症の原因となる微生物から守られています。物理的バリアには、皮膚、粘膜、涙、耳垢、粘液、胃酸、尿などがあります。例えば鼻と気道の内壁は粘液により覆われ空気中の微生物がこの粘液に付着し、咳や鼻をかむことで体外に排出されます。

疫系は身体の物理的バリアをかいくぐって侵入した微生物を見つけて排除します。免疫系には自然免疫系(主に顆粒球やマクロファージからなる)と獲得免疫系(主にリンパ球からなる)の2つの仕組みがあります。具体的には、まず白血球(好中球と単球)が増加し、病原体を貪食して破壊したり、感染組織でおこった炎症の進行を持続させる物質(サイトカイン)を放出し、毛細血管内の血液を凝固させるなどして病原体やその出す毒素が広がらない様に働きます(自然免疫)。

さらに、免疫系は病原体を識別して殺す能力を持つキラーT細胞(白血球の一種)や病原体を特定して攻撃する抗体を作ります(獲得免疫)。

老化に伴って低下するのは獲得免疫系で、病原体やがん細胞など非自己の排除機能が低下するため感染症やがんになりやすいとされています。

免疫機能が低下すると、日常では病原性を発揮しない真菌カンジダやヘルペスウイルス等が感染していわゆる日和見感染を起こすこともあります。

発熱は、体温をあげることで免疫機構の性能を高めますが、高齢者は十分に発熱できないことがあります。また、高齢者は白血球が足りないこともあり、その感染は遷延性や反復性となり抗菌剤にも反応が鈍くなります。

従って高齢期の感染症予防のためには、日常的に身体機能を健康に保ち、免疫系を健全に保っておくことが重要です。

免疫系の能力に関与する要因としては生体内因子(加齢による胸腺萎縮、ストレス、肥満など)と生体外因子(栄養状態、運動、睡眠等の生活習慣)があります。感染症に繋がる免疫機能を低下させないためには、栄養・運動・十分な睡眠などライフスタイルを健全に保つことに加えて、心を健やかに保ち、酸化ストレスを減らし、抗酸化力を高めることが重要です。笑いが免疫機能を高めることも報告されています。

さらに栄養状態は免疫機能に大きな影響を与えることが指摘されています。

高齢期になると、消化吸収機能も低下するため、質の良いタンパク質やビタミン・ミネラルの豊富な食材を食べやすく調理して、よく噛んでゆっくりいただき誤嚥を防ぐことが、免疫力を高め、感染症を予防するうえで大切であるといえましょう。その他に寝る前には口腔内を清潔にすること、肺炎球菌等のワクチン接種をうけることも重要です。センターはご利用者様の感染症予防に細心の注意をはらっていますが、ご家族の皆様方も免疫力を高め病原体にまけない高齢期に備えましょう。今年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

平成31年(2019年)元旦

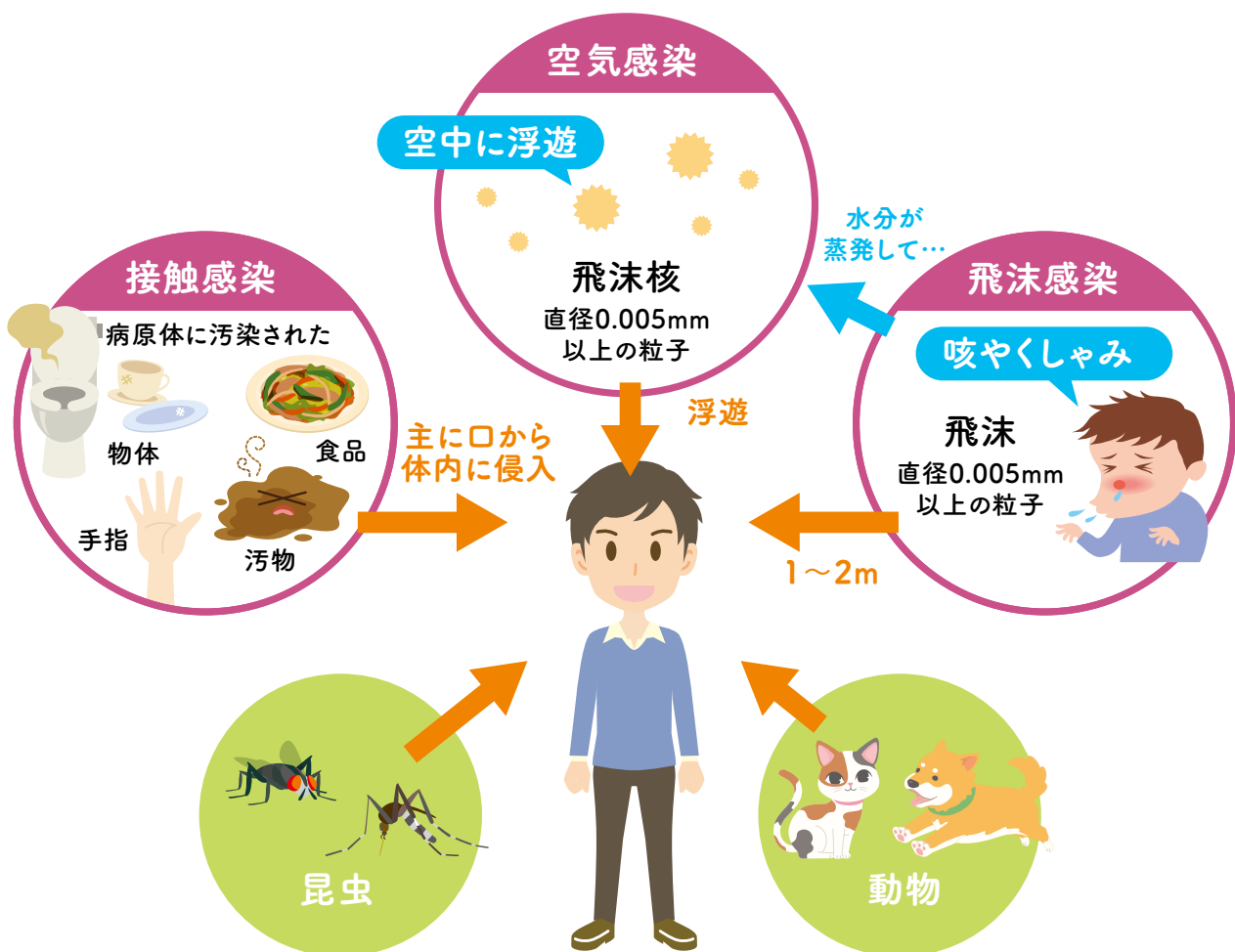
# 感染症(予防)への取り組み

今号の特集は、感染症・感染症予防への取り組みについて取り上げます。

そもそも感染症とは、病原体(=病気を起こす小さな生物)が体に侵入して、症状が出る病気のことをいいます。病原体は大きさや構造によって細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類されます。病原体が体に侵入しても、症状が現れる場合と現れない場合があります。感染症となるかどうかは、病原体の感染力と体の抵抗力とのバランスで決まります。

代表的なものとして、インフルエンザ・風邪・食中毒・結核・麻疹・風疹などがあります。

主な感性経路として、空気感染・接触感染・飛沫感染があります(図1)



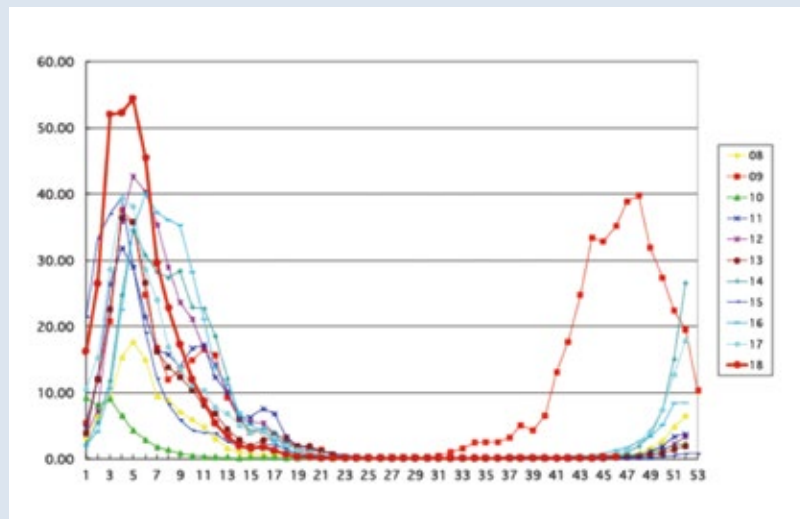
次からは、冬に流行する代表的な感染症である“インフルエンザ”と“ノロウイルス”について解説し、福祉センターでの予防への取り組みなどを紹介させていただきます。

## 【インフルエンザ】

インフルエンザは、口や鼻から入ったインフルエンザウイルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することによって発症する急性の呼吸器感染症のことです。

感染の流行時期は冬場といわれています。図2は2008年から2018年の10年間の感染者数の推移になります(縦軸は感染者数、横軸は週数)。年ごとに多少のバラつきはありますが、45週目の11月半ばから感染者数が増加し、5週目の2月初旬にピークを迎え、徐々に減少しています。

冬場に流行する理由として、ウイルスは水分を含んでいます。この水分が乾燥した空気にさらされ蒸発すると、ウイルスは軽くなり、私たちの身の回りを浮遊しはじめます。さらに、冬の寒さで体温が下がると、体の抵抗力が弱り、空気中に浮遊しているウイルスが口や鼻から体内に侵入しやすくなり、風邪やインフルエンザにかかりやすくなると考えられています。



(出展元：国立感染症研究所HP) (図2)

インフルエンザの症状としては、急に38℃以上の高熱が出て、咳や筋肉痛、関節痛などの全身症状が現れます。俗にいう風邪との違いは図3を参照ください。

	インフルエンザ	風 邪
発症	急激	比較的ゆっくり
初期症状	発熱、寒気、頭痛	くしゃみ、鼻水、のどの乾燥
おもな症状	高熱、頭痛、感染痛、筋肉痛、咳、のどの痛み、鼻水など	のどの痛み、鼻水、鼻詰まり、くしゃみ、咳、発熱(高齢者は高熱が出ない事もある)
症状の部位	強い倦怠感など全身症状	鼻、のどなど局部的
特に注意が必要な人	子供、高齢者、基礎疾患をもっている人、妊婦	なし
潜伏期間	1~3日	2~5日
感染期間	1~7日	1~10日
原因となるウイルス	インフルエンザウイルス	ライノウイルス、コロナウイルスなど
感染経路	飛沫感染および空気感染、接触感染	飛沫感染、接触感染

(図3)

特に乳幼児や高齢者、呼吸器疾患・循環器疾患・糖尿病などの基礎疾患がある方は、インフルエンザに感染すると重症化しやすく、注意が必要です。高齢者や基礎疾患のある方は気管支炎や肺炎などの合併症を起こしやすく、基礎疾患の悪化を招く恐れがあるため、高齢者福祉サービスを提供している施設・事業所は、特に予防に気を付けています。

## 【食中毒(ノロウイルスなど)】

細菌やウイルスに汚染された食べ物や水を、食べたり飲んだりすることによって感染します。主な症状は、腹痛、下痢、嘔吐、発熱などです。

種類	症状	汚染されやすい食品
ノロウイルス	吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱	かきなどの二枚貝(生食)
カンピロバクター	腹痛、下痢、嘔吐、発熱	鶏のささ身(生)など
サルモネラ属菌	激しい腹痛、下痢、ときに発熱	加熱不十分な卵など
病原性大腸菌	腹痛、下痢、血便、発熱、倦怠感	加熱不十分な肉など
腸炎ビブリオ	激しい腹痛、下痢、嘔吐、吐き気、発熱	魚介類の刺身など

【購入時】新鮮なものを選びましょう。常温で持ち歩く時間が長いと細菌増殖の危険性が高くなります。

【保存時】帰宅後は、要冷凍・要冷蔵の食品を速やかに冷凍室・冷蔵室へ。肉や魚は他の食品と分けて保存し、汁などをつけないように気を付けます。

【調理時】台所は常に清潔を心がけ、調理時は食品の中心部を85～90℃で90秒以上加熱して食中毒を防ぎましょう。

【食事時】食事の前にしっかりと手を洗い、調理済みの食品を常温で2時間以上放置しないように気を付けましょう。

特にノロウイルスの注意点として、乾燥や熱にも強いうえに自然環境下でも長期間生存が可能。感染力が非常に強く、少量のウイルス(10～100個)でも感染・発症します。そのために2次感染、集団感染を引き起こしやすい感染症となります。

それでは、私たち地域福祉センターでの感染症に対する取り組みを施設系と在宅系に分けてご紹介いたします。参考にしていただき、皆様の健康管理にもお役立ていただけたらと思います。

## 施設部門の取り組み

### 特別養護老人ホーム高喜苑

施設は、高齢者が集団で生活をする場となります。その中でインフルエンザが発症するとたちまち感染が広がってしまいますので、予防に力を入れています。

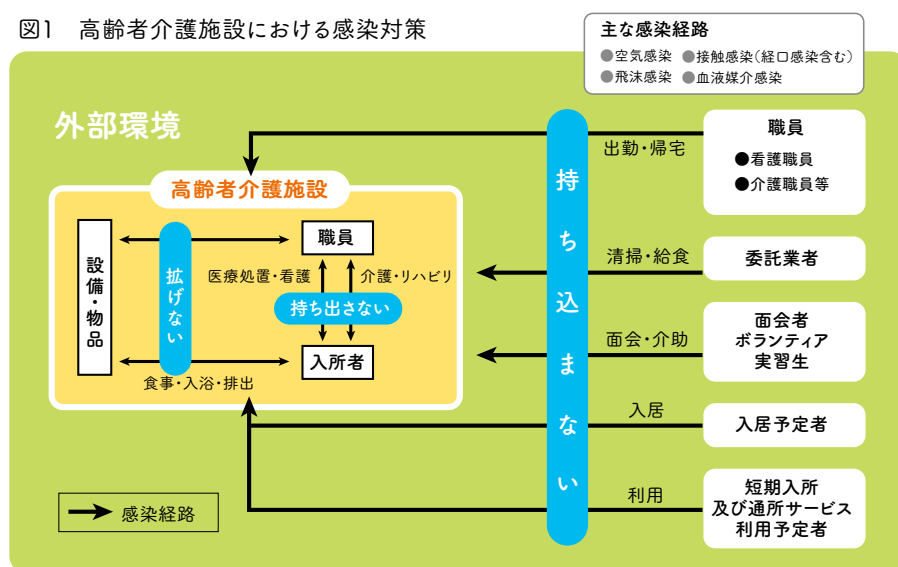
予防の基本として、感染経路の遮断が大切です。①感染源(病原体)を持ち込まない②感染源(病原体)を持ち出さない③感染源(病原体)を広げない (図1参照)

そのために手洗いの励行と環境の清掃を徹底しています。

手洗いですが、インフルエンザに関わらず、すべての感染症予防の基本となるため、介護をする前、した後など小まめに手指消毒を行っています。そのために全職員が携帯用の手指消毒液を持ち歩いています。

次に環境の清掃ですが、手が触れる場所(スイッチ、ドアノブ、手すりなど)には、菌が付着しているものと考え、毎日のアルコール消毒を行っています。

図1 高齢者介護施設における感染対策



このように予防に万全を期してはいるのですが、感染者が絶対に0になるという事はありません。そこで、病原体を外部から持ち込まないという点に着目し、数年前より職員は毎日の検温をしておの体調管理を行い、外来者の流行時期の施設への立ち入り、面会を厳しく制限させて頂いています。面会制限を厳しくした2015年度より罹患者の減少

がみられ、一定の成果がありました。

また感染対策委員会においては、ノロウイルス発生時の吐物処理やガウンテクニック、感染の予防と拡大防止のためのオムツ交換の手技について勉強会を実施し、適切な処理対応を職員一人ひとり体験し、感染予防に対する意識向上に繋がっています。

#### 【勉強会の様子】



①吐物が拡散しないよう新聞紙等で被せ、薬剤(次亜塩素酸ナトリウム)を散布している様子

②オムツの交換の手技について体験している様子

これからも入居者の体調管理に最大限留意しながら、安心して過ごしていただけるように万全を期していきたいと思っております。

## シルバーフラット武岡台



感染マニュアルを職員へ周知徹底し、取り組んでおります。職員の研修も定期的実施するとともに、入居者様には、時期を配慮しながら、感染予防に対する講話も行います。玄関と各階エレベーター横と食堂入口には、写真にもありますように手指消毒を設置し、正しい消毒法をご案内しながら手指消毒の徹底、11月からは外部からの面会者には手指消毒とマスク着用、検温をお願いし、体調不良の方には面会をご遠慮いただいております。入居者様が外出される際はマスク着用のお願いと、帰室時は手洗い消毒

はもちろんのこと、含嗽もお願いしております。

「うつらない」をモットーに、お元気に安心して過ごしていただくために、常時、職員一同心がけております。

## 在宅部門の取り組み

### 訪問看護

訪問看護は日常にご高齢な方やご病気を抱えて療養生活を送る方々へのご支援をしております。私たち支援者が感染症を持ち込まないよう、日常的に手指消毒やマスクの使用など標準予防対策を行っております。また、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が多発する時期は、その情報収集に努め、更なる予防対策の徹底に努めております。その際に、ご利用者や家族へも予防策をご指導させていただく事もあります。



- ①消毒用ジェル
- ②ディスポグローブ
- ③マスク
- ④ディスポエプロン
- ⑤足カバー
- ⑥ペーパータオル
- ⑦予防着

訪問時に上記の感染症や疥癬などの疑いがある方へもその場で対策がとれるように、私たちの訪問バック感染予防対策の七つ道具をご紹介します。

さらに、在宅療養をされている方で医療的処置を必要とされている方への消毒指導という面では、ご本人を含めご家族に多くの消毒管理を求めることは療養生活や介護への負担になる事が懸念されます。そこで、個々の生活管理能力・経済状況・介護力などを踏まえ、一般的にご家庭にあるハイターや手指消毒用アルコールの活用、煮沸や電子レンジなどによる加熱処理で賄えるように療養指導をさせていただくこともあります。

### 職員より ひとこと

私たちが日常に行う感染対策と消毒の主な目的は、在宅での医療処置による感染から在宅療養者を守り、私たちが感染を拡げてしまう感染源にならないことと考えております。

療養者や家族が感染症について必要以上に心配し、余計な不便をこうむってしまうことを避けなければならないという思いで、日々支援をさせて頂いております。





## 訪問介護

ホームヘルプステーション高喜苑では、様々な感染症に対して細かく対応策をマニュアル化し各職員へ研修を通して周知・確認をしております。

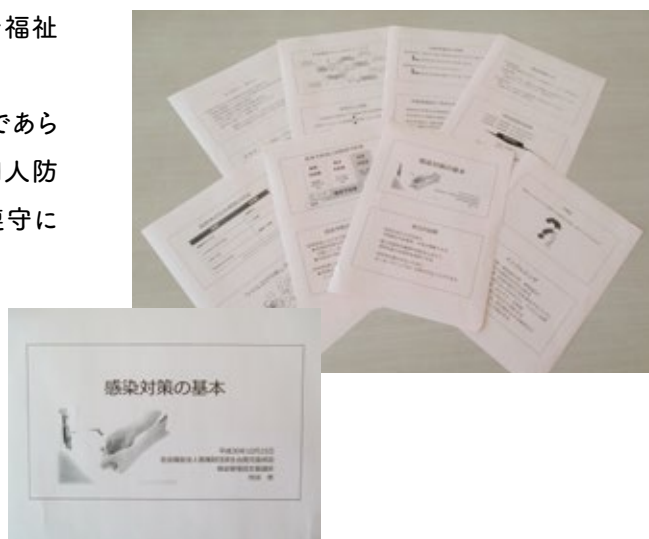
感染症にもよりますが、それぞれの利用者様の生活に支障をきたす事がないよう「サービス提供時の手袋の着用、前後の手洗い・うがい」「担当者を限定し接触する人を最低限の人数にする」「身体介護を必要とする利用者、抵抗力が低下している利用者宅には続けて訪問しないようにスケジュールを調整する」などの対応をしております。また、訪問介護員へ「自身の体調に変化がみられる場合は、サービス提供責任者へ早目の報告。病院受診し医師の診断を受け症状が治るまで訪問は控える。治療後1週間は食品へ触れるサービスは行わないように調整する」などの対応もしております。

訪問介護員は感染予防のための「マスク・手袋・ガウン・消毒液・ゴミ袋」などを携帯し、訪問した際に嘔吐等があれば体調確認や必要な機関への連絡、吐物処理、処理後の居室掃除、衣服の処理などの支援も行っております。

### 【感染症予防の研修】

感染症が流行する前の10月に感染症予防の研修を福祉センター全職員対象として行いました。

講師に済生会鹿児島病院の感染管理認定看護師であられる牧田恵様を迎えて、手指衛生の必要性、適切な个人防护服の選択、感染の伝播をさせないためのルールの遵守についてご講義いただきました。高齢者施設における感染対策の特徴や標準予防策と経路別予防策などを学び、何よりも予防が大切で感染対策は日常の業務で必須のものである改めて認識いたしました。



### 【研修報告】

～感染管理研修を受講して～

11月に済生会本部で開催された感染管理研修を受講いたしました。研修内容は、災害時の感染対策、感染に関するK(危険)Y(予知)T(トレーニング)演習など行いました。

災害時の感染対策として、トイレが使用できない時の排泄方法、使用済みオムツ管理などビニール袋がとても重要されるとの事でした。また、KYT演習を行い、日常の清潔操作の基本的知識と重要性を学ぶことができました。

研修を受け、感じたことは、目に見えないウイルスや細菌から身を守ることはとても難しい事のようなのだが、シンプルに標準予防策と手洗いの徹底が手段感染予防に重要な事であると感じました。

※標準予防策…感染症の有無に関わらず、手洗い、咳エチケット、手袋の着用、防護服の着用を行い、看護や介護を行う事。



認知症ケア  
あれこれ

# MCI(軽度認知障害)について

## 軽度認知機能障害とは

認知症を認めない状態

認知症のない人と  
ある人の中間にある  
段階(状態)

軽度認知障害

Mild Cognitive Impairment

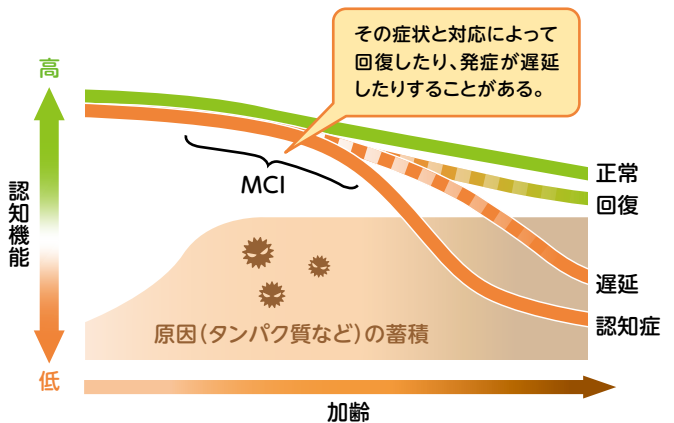
日常生活にさほど  
支障はない状態

認知症を認める状態

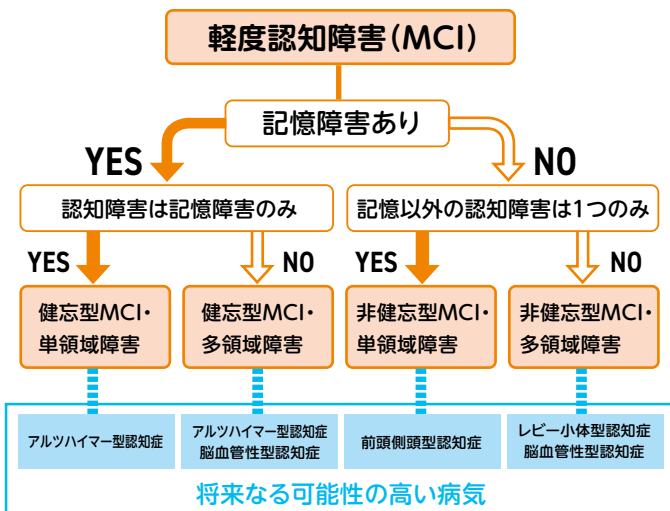
## 認知機能障害(MCI)の5つの定義

- ① 記憶障害の訴えが本人または家族から認められている
- ② 日常生活動作は性状
- ③ 全般的な認知機能は正常
- ④ 年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する
- ⑤ 認知症ではない

## 認知機能と時間の経過



## MCIの4つのタイプ



## MCIになるとどうなる?

### MCIの段階

適切な治療・予防をすることで回復したり、発症が遅延したりすることがあります。早期にMCIに気づき、対策を行うことで症状の進行を阻止することはとても大切です。

1年後

10人に1人が認知症

5年後

4人に1人が認知症

## コスモス見学に行ってきました。

### ▶ シルバーフラット武岡台

秋の草花を代表するコスモス、そのコスモスを愛でる日を待ちわびていたシルバーフラット武岡台のご入居様が、10月27日にまるで遠足を待ちわびた子供のように嬉々としてホールに集合し車両に乗り込み出発。

晩秋の気配も漂うなか、好天に恵まれ車窓からは色づいた木の葉がそよ風に舞い落ちたり、盛りを過ぎたススキの穂がささやかに揺れたり、秋の風情がまるで一幅の清涼剤のようで道中の会話も弾み、それはそれは嬉しいものでした。

満開のコスモスをバックに記念撮影も、お弁当に舌鼓する顔、顔、顔の満面の笑顔も、苦難の時代を経てなお少年少女に勝るとも劣らない清く澄んだ心を宿していることに触れ心から感動しました。人生の大先輩でもある皆さんに、日々活力を抱いていただけるようなサービスの必要性と大切さを改めて思い知らされ、皆さんの健康で長寿の一端を担えるパートナーでありたいと再確認させられた農業センターでの一日でした。



## 妙円寺詣りフェスタ2018に参加して

### ▶ 地域連携委員会

2018年10月27日・28日に鹿児島県の三大大行事の一つに数えられる「妙円寺詣り」が行われました。また、「妙円寺詣りふえすたウォークリー」は、同行事大会に合わせて、鹿児島市の照国神社から日置市伊集院の徳重神社までのおよそ20kmを歩くイベントとして毎年開催されています。済生会鹿児島地域福祉センターでは、毎年この「妙円寺詣りふえすたウォークリー」の第1関所として、ウォークリー参加者への水分補給や休憩場所のご提供を行い、イベントへの協力させていただいております。

そして、2018年は明治維新150周年を迎え、大河ドラマでも鹿児島を舞台とし鹿児島県全体で盛り上がりを見せております。今回のイベントでも大河ドラマに出演中の俳優の方々がトークイベントに参加され、ウォークリーイベント参加者も例年より多くの方が参加されたようです。

また関所の方では、子供から高齢者まで元気に歩かれており、中には、鎧冑に身を固めた勇壮な武者行列の方々や、朝早くから参加され昼過ぎには往復して戻ってこられたマラソン選手顔負けの方もいらっしゃいました。

今回この行事に参加し、地域の方々との交流を持つことができ大変有意義な機会をいただきました。また同時に、郷土出身者が多数関与している「明治維新」という日本の歴史の大改革を改めて学び、地域行事を通して、伝統・文化を次世代へ繋いでいく大切さを感じました。



## 〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

### 〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

### 〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

#### 特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

#### シルバークラウド武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

#### 済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-202-0710 **FAX** 099-283-4733

#### 指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

#### グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

**TEL** 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

#### グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

#### 武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

#### 済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

#### なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

#### ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

#### 済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

#### 訪問入浴センター 高喜苑

〔指定訪問入浴介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-4731 **FAX** 099-283-4733

#### 訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-283-4730 **FAX** 099-284-8255

#### 鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-210-5460 **FAX** 099-210-5560

## 編集 後記

最近、「平成最後の」という枕詞をよく耳にします。‘平成’は平成31年4月30日に今上天皇の退位により終了する予定となっております。平成のおおよそ30年間、様々な事がありました。福祉の世界でも、平成9年には介護保険法がスタートするなど、大きな転換期を迎えました。新たな元号の新しい時代に向けて、さらに身が引き締まる思いであります。